総会記念講演

# 歯髄再生治療の確立へ

## 中島氏　世界初の臨床研究を報告

歯髄幹細胞を用いた再生医療の可能性を語る中島氏＝5月26日、大阪市内

協会が5月26日に大阪市内で開いた第54回定期総会で、総会を記念して中島美砂子氏（元国立長寿医療研究センター研究所幹細胞再生医療研究部部長）が「歯髄・象牙質再生治療の近未来」をテーマに講演した。会員、会員院所スタッフら89人が参加した。

中島氏は歯髄幹細胞を使った歯髄・象牙質再生治療の世界初の臨床研究について報告。被験者5例とも治療法の安全性が確認されたとともに、歯髄・象牙質の再生が示唆されたことを紹介した。

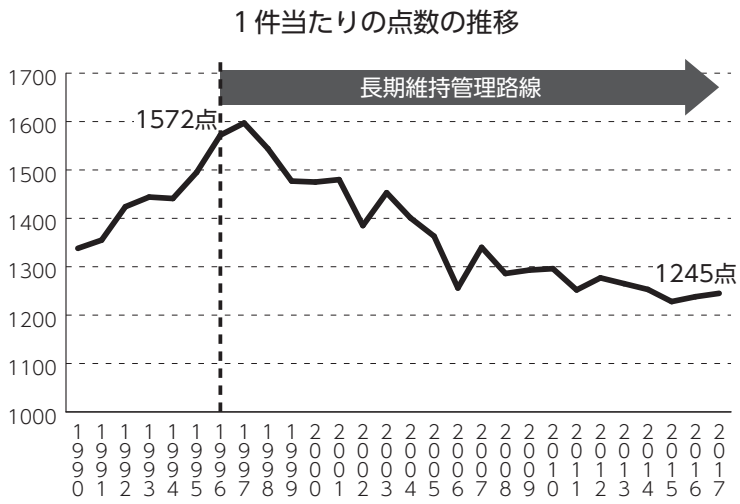
課題として「感染のコントロール」を挙げた同氏は、ナノバブル技術を使った根管内の無菌化法を開発したことを説明。「ナノバブルと抗菌剤の混合物を歯管内に入れることで薬剤が象牙細管内に深く入り込み、除菌ができる」と述べ、「短時間で無菌化できることから、現在の根管治療の効率化にもつながる」とした。

また、中島氏は歯髄幹細胞の増殖能や再生能の高さに着目し、脳梗塞やアルツハイマー病の治療への活用に言及。歯髄幹細胞を用いた再生治療の可能性を強調した。

企業と協力しながら神戸市内に歯髄幹細胞の研究拠点を5月に開設したことを報告し、「歯髄幹細胞を培養し、再生治療に活用する『幹細胞バンク』の構築を進めている」と説明した。「治療法が確立すれば患者のためになるだけでなく、歯科医師の生産性向上や高性能の歯科治療にもつながる」と話した。

# 数字で見る歯科医療 ⑨

## 安上がりの維持管理




### 1件当たりの点数

医療費抑制政策の下で1996年に「補綴物維持管理料」（補管）が導入され、診療報酬は長期維持管理路線に転換した。当時、補綴治療費は歯科医療費の5割を占めており、その削減を狙ったのは明らかだった。

2000年には補管を施設基準とする「か初診」が導入された。保団連などの反対で廃止されたが、06年には「歯科疾患総合指導料」「歯科疾患継続管理診断料」「歯科疾患継続管理料」が診療報酬に組み込まれた。08年に「歯科疾患管理料」として改変されたが、安上がりの長期維持管理を目指す厚労省の方針は一貫している。

維持管理移行後、歯科医療費はどれだけ抑制されたのか。

1件当たりの点数を比べると、96年は1572点だったが、17年には1245点まで減少した。低点数による維持管理を是正するには、低歯科医療費政策を根本から転換させることが重要になっている。

# 第54回定期総会の来賓、祝電・メッセージ

（順不同・敬称略）

### 来賓

全国保険医団体連合会会長・住江憲勇、大阪府保険医協会副理事長・宇都宮健弘、兵庫県保険医協会副理事長歯科部会長・加藤擁一、兵庫県保険医協会事務局次長・小川昭、自由民主党衆議院議員佐藤ゆかり秘書・田中督人、立憲民主党衆議院議員・村上史好、立憲民主党衆議院議員・長尾秀樹、日本共産党衆議院議員・清水ただし、日本共産党参議院議員・たつみコータロー、日本共産党参議院議員・山下よしき、日本維新の会参議院議員高木かおり秘書・石村雅彦、社民党大阪府連代表・服部良一、社民党参議院比例代表予定候補者・大椿ゆうこ、日本共産党大阪府会議員団団長・石川たえ、自由民主党・市民クラブ大阪市会議員団幹事長・北野妙子、日本共産党大阪市会議員団代表・山中智子、府民要求連絡会事務局長・有田洋明、明るい民主大阪府政をつくる会事務局長・荒田功、年金者組合大阪府本部副委員長・橋本広子、原水爆禁止大阪府協議会理事長・川辺和宏、全大阪労働組合総連合議長・菅義人、西晃法律事務所協会顧問弁護士・西晃、大阪中央会計事務所協会担当税理士・小塩圭子、清家税理士事務所協会医業税理士団団長・清家裕、大阪共同会計事務所協会医業税理士団副団長・佐飛淳一、株式会社関西共同印刷所営業部第1課課長・鈴木久、株式会社関西共同印刷所営業部第1課係長・森栗竜夫、大阪いずみ市民生活協同組合理事長・勝山暢夫、全国福祉保育労働組合大阪地方本部執行委員長・多久和令一、大阪公害患者の会連合会・上田敏幸、社会福祉法人大阪福祉事業財団理事長・茨木範宏、新日本婦人の会大阪府本部会長・杉本和、大阪民主医療機関連合会会長・向井明彦、大阪医療労働組合連合会執行委員長・廣田智美、大阪商工団体連合会、特定非営利活動法人大阪難病連、府民要求連絡会、大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会、福祉保育労働組合大阪地方本部、全大阪生活と健康を守る会連合会、全国一般労働組合大阪府本部、大阪医療労働組合連合会、原水爆禁止大阪府協議会、安保破棄諸要求貫徹大阪実行委員会、消費税をなくす大阪の会、八尾社会保障推進協議会、西成区社会保障推進協議会

### 祝電・メッセージ

#### 関係団体

一般社団法人大阪府歯科医師会会長・太田謙司、一般社団法人大阪府歯科技工士会会長・清水潤一

#### 保険医協会関係

協会・医会、協同組合等42団体

#### 協力・共同団体等

大阪弁護士会会長・今川忠、明るい民主大阪府政をつくる会事務局長・荒田功、府民要求連絡会事務局長・有田洋明、一般社団法人大阪自治体問題研究所理事長・中山徹、大阪から公害をなくす会会長・金谷邦夫、大阪市会議員・岡下昌平、自由民主党衆議院議員・かみたに昇、自由民主党参議院議員・柳本卓治、立憲民主党衆議院議員・尾辻かな子、立憲民主党衆議院議員・辻本清美、立憲民主党衆議院議員・森山浩行、公明党衆議院議員・北側一雄、日本共産党衆議院議員・清水ただし、日本共産党参議院議員・たつみコータロー、日本共産党参議院議員・山下よしき、日本維新の会衆議院議員・井上ひでたか、日本維新の会衆議院議員・浦野靖人、日本維新の会衆議院議員・遠藤敬、日本維新の会衆議院議員・足立康史、日本共産党大阪府会議員団団長・石川たえ、公明党大阪市会議員団、日本共産党大阪市会議員団代表・山中智子、OSAKAいくの　代表大阪市会議員・武直樹

#### 顧問弁護士・税理士・社労士関係

鳥居義昭、西晃、清家裕、佐飛淳一、疋田英司、井川博幸、伊藤幸子、黒岩哲夫、斎藤直樹、竹内克護、中谷光之、西村博史、林明、山本佐代子、桂好志郎、堀口正二

#### 政党関係

自由民主党衆議院議員・岡下昌平、自由民主党衆議院議員・かみたに昇、自由民主党参議院議員・柳本卓治、立憲民主党衆議院議員・尾辻かな子、立憲民主党衆議院議員・辻本清美、立憲民主党衆議院議員・森山浩行、公明党衆議院議員・北側一雄、日本共産党衆議院議員・清水ただし、日本共産党参議院議員・たつみコータロー、日本共産党参議院議員・山下よしき、日本維新の会衆議院議員・井上ひでたか、日本維新の会衆議院議員・浦野靖人、日本維新の会衆議院議員・遠藤敬、日本維新の会衆議院議員・足立康史、日本共産党大阪府会議員団団長・石川たえ、公明党大阪市会議員団、日本共産党大阪市会議員団代表・山中智子、OSAKAいくの　代表大阪市会議員・武直樹

リポート　北欧の歯科医療最前線 part. 2 ⑪

# 報酬システムによる診療方針の違い

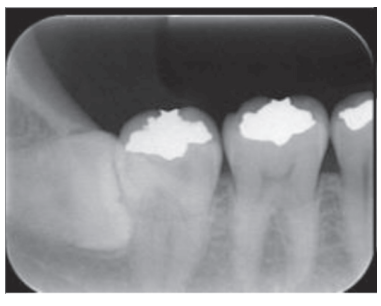
NPO法人「最先端のむし歯・歯周病予防を要求する会」理事長　西　真紀子

本紙2017年11月25日号で説明したように、報酬システムは歯科医師の診療方針に影響を与える。医師はどのようなシステムの下であれ、患者の最大利益のために診療方針を立てることが理想だが、この「性善説」は一般的に機能しないことは認めた方が良いだろう。むしろ、病因論に応じて、患者が最大利益を得られるよう、どのようなシステムにすれば、歯科医師がそのような診療方針を立てるのかという観点が求められる。

## 定期的メインテナンスが基盤

北欧では、定期的な歯科メインテナンスが基盤になっているため、過小治療になりがちな経過観察に妥当性が生まれる。介入を待ったおかげで齲蝕に関して、フッ化物を日常的に利用していれば、齲蝕の進行がそれほど速くないこと［1］、口腔内環境を改善すれば、初期齲蝕を再石灰化させられるということが明らかになった。歯質の温存は、歯の延命に大きく貢献している。

## 智歯に対する診療方針



50歳日本人女性の下顎右側の臼歯部。齲蝕、歯周病のローリスク患者で定期的メインテナンスに応じている。智歯周囲に症状が出た既往はなし。非抜歯で経過観察中

智歯についても、定期的な歯科メインテナンスが前提にあると、予防的抜歯をせずに、保存して経過観察するという方針を選択できる。症状と問題のない智歯の予防的抜歯も、非抜歯も、両方についてエビデンスは得られていない［2］。すると、費用効果が優れているのはどちらなのか、賢明な選択肢は自ずと決まる。

また、どこの歯科医院でも個人の齲蝕と歯周病のリスク評価が行われているので、個人のリスクに合わせて、抜歯か非抜歯を決められる（図）。リスク評価やメインテナンスをせずに、予防的抜歯がスタンダードである日本のようなしくみと比較して、どのくらい全体の歯科医療費が抑制されているのか、また、患者の生産性低下や通院時間など全てを含めた社会全体の費用効果がどのくらい違うのか、興味深い。

智歯抜歯にしても、日本では社会全体の公益を第一にするような発想は生まれにくいかもしれない。しかし、一人ひとりが公益を無視した国民皆保険制度は、もはや持続可能ではない。

参考文献
1. Mejare I, Kallest I C, Stenlund H. Incidence and progression of approximal caries from 11 to 22 years of age in Sweden: A prospective radiographic study. Caries Res. 1999;33(2):93-100. Epub 1999/01/20.
2. Ghaemmia H, Perry J, Nienhuijs ME, Toedtling V, Tummers M, Hoppenreijs TJ, et al. Surgical removal versus retention for the management of asymptomatic disease-free impacted wisdom teeth. Cochrane Database Syst Rev. 2016(8):CD003879. Epub 2016/09/01.